



## 廃校舎を新たな価値へ

No.1

廃校リノベーション 旧小鳥原小学校起工式・7/21

西城町の旧小鳥原小学校で「ひろしまさとやま未来博2017」のシンボルプロジェクトとして実施している「廃校リノベーション」の起工式が行われ、実行委員会や地元関係者など約30人が出席しました。

これまでに校舎活用計画を検討したワークショップやクラウドファンディングによる資金調達など、市内外の方にも協力いただき、「山に囲まれた木と竹の学校」をコンセプトに世界的建築家の隈研吾氏監修のもと改修されます。

地元八銚自治振興区の定木文宜会長は、「この小鳥原小学校が再び多くの人が集う拠点となることを期待している」と話していました。



▲旧小鳥原小学校の2階は多くの人が集う拠点に生まれ変わる



▲改修イメージ



▲地元の八銚自治振興区定木会長あいさつ

## 趣向を凝らしてより楽しむ

芸備線×カーブ応援ツアー！・6/13

No.3

「乗って守ろう芸備線」を合言葉に、庄原市観光協会による企画「芸備線×カーブ応援ツアー！」が開催されました。今回で2回目となるこの企画は、芸備線の利用促進を目的としているもので、参加者は広島東洋カーブの応援のため、JRの列車を利用し三次きんさいスタジアムに駆け付けます。

当日は赤いカーブグッズに身を包んだ50人の参加者が、JR備後西城駅を笑顔で出発し、JR三次駅まで約1時間の列車の旅を楽しみました。中には芸備線を初めて利用する参加者もいて、「車内からの景色が楽しみ」「バスや車と異なり、大勢と話をすることができ1時間が短く感じる」と笑顔で話していました。



▲JRの列車に乗り込む参加者

## 幹部の役割を確認する

平成29年度庄原市消防団幹部訓練・7/2

No.2

□和総合運動公園で、庄原市消防団の幹部訓練が行われました。この訓練は、消防団における部長以上の階級を対象に、消防団幹部としての確実軽快な動作および厳正な態度を身につけるため、庄原市小型ポンプ操法競技大会開催年を除き毎年実施するものです。

訓練には、各方面隊約130人が参加し、本市消防団所属の県委嘱訓練指導員による指導のもと、各個訓練、部隊訓練などを約3時間行い、団員個人や部隊での動作を確認しました。

訓練終了後の講評で、備北地区消防組合東城消防署の正畑慶治署長は、「団幹部としての旺盛な士気が感じられ、終始緊張感を持った訓練が行われていた」と話しました。



▲各個訓練の様子



## 心を込めて思いを届ける

絵手紙の会・7/7

No.9

比和自治振興センターで、八谷和子さんを講師に招き、月に1度の絵手紙の会が開かれました。

この会では、地域住民が集まり、季節の花や食べ物など好きなものを持参して絵を描き、文章を添えて、オリジナルの絵手紙を作っています。

今回、アジサイの花を描いていた参加者は、「いつも作った絵手紙を友人たちに送っており、その人たちが毎回喜んで返事をくれるのが嬉しい。なかなか会えない人とのコミュニケーションをとるきっかけにもなるし、次は何を描こうかと考えるのも楽しい」と笑顔で話していました。



▲参加者は思い思いに絵を描き絵手紙を作成

## 「住宅デー」で施設がリフレッシュ

広島県建設労働組合が奉仕活動・6/24～25

No.11

全国統一「住宅デー」の6月25日を中心に、市内各地で広島県建設労働組合による技術奉仕活動が行われました。

この活動は、同組合第12地域連合庄原が組合員の仕事や技術を知ってもらい、地域の安全・安心に貢献しようと取り組むものです。活動では、組合員50人が庄原・東城地域の保育所や放課後児童クラブの施設修繕、西城地域の桜の木の剪定作業、口和・高野地域の一人暮らしの高齢者住宅の修繕などを行いました。

庄原北保育所では、14人の組合員がテラスなどの塗装と格子扉やベンチを作製。上田優子所長は「手際良く、テラスをきれいに塗装してもらった。大変にありがたい。園児たちは『わぁ！きれいなっとなっ！』と歓声をあげて喜びました」と話していました。



▲庄原北保育所でベンチなどを造る組合員の皆さん

## 暑さを吹き飛ばす

特別養護老人ホームハートウイング納涼祭・7/22

No.8

口和町永田の特別養護老人ホームハートウイングで納涼祭が行われました。会場には地域住民も訪れ、入所者と合わせて約200人が集まりました。

入所者は地域住民と一緒に、カラオケ大会や永田芸能保存会の永田田楽、聖慈保育所の子ども神楽などの華やかなステージを楽しみました。また地元の乳製品やパンなどのバザーもあり、会場は盛り上がりしました。

特別養護老人ホームハートウイングの職員は「納涼祭を楽しみ、みんな元気に暑い夏を乗り切っていきたい」と話していました。



▲参加者は永田田楽などのステージを楽しんだ

## 親子で楽しむすてきコンサート

総領保育所ほたる見会・6/16

No.10

総領保育所で「ほたる見会」が開催され、園児と保護者50人が参加しました。この催しは本年で11回目を迎え、今回は、安芸高田市在住のフルート奏者角濱美穂さん一家によるミニコンサートが行なわれました。

コンサートでは、美穂さんがフルート、夫の訓司さんがサクソ、娘の奈穂さんがピアノ、息子の剛くんがエレクトーンで、ジブリやディズニーなどの名曲を演奏しました。また、園児3人がピアノやエレクトーンで演奏に飛び入り参加する場面もあり、会場は盛り上がりしました。

コンサート終了後の20時には、親子で保育所近くの川で飛び交うホタルを鑑賞し、幻想的な光を放つ姿に歓声が上がっていました。



▲参加者はフルートの音色に聞き入った

## スポーツを通じて異業種交流

職域ソフトボール大会・7/2

No.5

第49回職域ソフトボール大会が高野スポーツ広場などで開催されました。この大会は、高野地域ふれあいソフトボール大会実行委員会と庄原市体育協会高野支部が主催し、高野地域における職場相互のふれあいを深めることを目的に開催されています。

当日は応援の声と歓声が飛び交う中、農青連チームや故郷高野チーム、備北消防チームなど12チームによる戦いが繰り広げられました。試合はトーナメント方式で行われ、農青連Aチームが見事頂点に輝きました。

実行委員長の上智広さんは「異業種交流の良い機会になっていると思う。来年で50回目を迎えるのでさらに盛り上げて行きたい」と話していました。



▲繰り広げられる熱戦

## 体験が豊かな情操を養う

本物の舞台芸術体験事業・6/28

No.7

庄原市民会館で大蔵流善竹狂言会による「わんぱく狂言」の鑑賞会が開催されました。この事業は、次代を担う子どもたちに本物の舞台芸術に接する機会を提供し、芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うために行う事業で、毎年度、市内小学5・6年生を対象に行っています。

本年度は、市内小学校19校の児童や引率教員674人が、室町時代発祥の伝統芸能「狂言」を鑑賞しました。狂言の歴史などの説明を受けた後、狂言「柿山伏」「附子」を鑑賞し、最後の狂言師体験ワークショップでは、参加者全員で狂言の姿勢やセリフを体験しました。会場では終始笑い声があり、参加者は楽しみながら伝統芸能を体験しました。



▲狂言師体験ワークショップの様子

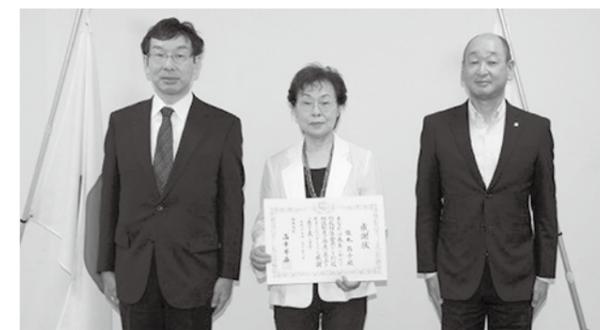
## 行政相談で人とのつながり

瀧本行政相談委員に感謝状伝達・6/7

No.4

庄原市役所で、長年にわたり行政相談委員を務めてきた瀧本昌子さんへの感謝状伝達式が執り行われました。瀧本さんは総務省からの委嘱を受け、平成23年4月から平成29年3月まで、東城地域担当の行政相談委員として、市民からの行政に対する要望や苦情の解決に取り組んできました。その活動に対し総務大臣から感謝状が贈られました。

瀧本さんは「相談される方は誰かに聞いてほしいという思いで来られるので、聞いてあげるだけでも楽になることがあります。相談を通じてできた人とのつながりは、私にとってかけがえのない財産です」と話していました。



▲瀧本さん(中)と中国四国管区行政評価局長(左)と矢吹有司副市長(右)

## 地域住民でつくるイベント

帝釈峡ウォーク・7/10

No.6

国定公園帝釈峡で「帝釈峡ウォーク」が開催されました。雨の影響で予定されていた約9キロメートルの「はんざきコース」は中止となりましたが、参加者は約5キロメートルの「かわせみコース」でウォーキングを楽しみました。

希望者には観光ボランティアガイドが同行し、国天然記念物「雄橋」をはじめ史跡「寄倉岩陰遺跡」や「紅葉ヶ瀬」などの名所を巡りました。また、雄橋付近では東城高校「東城応援隊」のメンバーが給水所を開設し、参加者をお茶とあめでもてなしました。

歩き終えた参加者は、特設テント村で川魚の塩焼きなどを味わい、特産品が当たる抽選会を楽しむなど、深緑の帝釈峡を満喫しました。



▲「東城応援隊」のもてなしを受けながら深緑を楽しむ参加者